はじめに

「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。
そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール（古文常識・作品常識含む）」**です。
三つの要素のうち、「文法」と「単語」が古文の土台となるところです。
「古文ができない」、「読めない」という人のほとんどは、この「文法」と「単語」がきちんとできていません。
この講座は、その土台の一つである**「文法」をしっかり身に着けるための講座**です。

本講座は**「ベーシックレベル」**ですが、「基本だけ学ぶ」という意味ではありません。
基本から説明をして、実際の大学入試の文法問題も解ける力がつくように構成しています。

他レベルの『文法講座』との大きな違いは、

- **各チャプター時間が短時間**〔チャプターの途中で集中力が切れてしまわないように。〕
- **用例ごとの例文が豊富**〔なるべく有名な文章から取り上げました。学校の授業で見かける文もあるはず。〕
- **問題数が多い**〔同じような問題でも、たくさん実施することにより、より記憶に定着させるため。〕
- **大事なことは繰り返し説明**〔何度も同じことを聞くことにより、自然と復習していることになる。〕
- **丁寧にじっくり解説**〔わかる人には冗長に感じるかも。ですが、**「ゆっくりじっくり確実に！」**の姿勢で。〕

あとは、テキスト解説部分の文字も大きく読みやすくしています。

他の文法講座より講数が多いのは、前述（例文・問題数が多いが、じっくり解説）の理由からです。
よって、身に着く内容は「ベーシックレベル」でも、他の文法講座となんら違いはありません。
全30講をきちんと仕上げたとき、大学入試文法問題を解く力はもとより、
大学入試レベルの文章を読むための土台の力も、十分についています！

現時点で「古文なんて、何書いているのかさっぱりわからないから大嫌いだ」という人は、なんの問題もありません。
一番恐ろしい勘違いは、「古文なんて日本語なんだから、勉強しなくてもどうにかなる」と思ってしまうことです。
断言しておきますが、勉強しておかないと、絶対にどうにもなりません。
「古文＝日本語」だと思っている人がいるならば、**「古文＝外国語」**だというくらいイメージを変えましょう。
ただし、**コツさえつかめば**、外国語を学習するよりも**ずっと簡単に、ずっと楽に「点取り科目」にすることができる。**
それが、古文のオイシイところです。

本講座で文法のコツをしっかりとつかんで、是非、古文を得点源の科目にしましょう！

予復習・授業の受け方について

予習は一切不要です。
ノートも不要です。
テキストと筆記用具さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。

テキスト中に〔**例題**〕や「**問題**」がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。
特に**太字**や**空欄に自分で書き込んだところ**に重点を置いて、覚え込むまで何度も復習してください。

復習が終われば、各パートの後ろにある「**確認問題**」を解きましょう。
確認問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。
万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「確認問題」を解き直しましょう。
記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

目次

ベーシックレベル　古文＜文法編＞

第1講　歴史的仮名づかい……p.6
第2講　品詞・活用形・係り結びの法則……p.16
第3講　動詞……p.28
第4講　動詞の活用表と応用編……p.42
第5講　形容詞・形容動詞・音便……p.64
第6講　助動詞（活用）……p.76
第7講　助動詞（接続）……p.86
第8講　ず・き・けり……p.96
第9講　つ・ぬ・たり・り……p.108
第10講　ぬ・ねの識別……p.120
第11講　る・らる／る・れの識別……p.140
第12講　「す・さす・しむ」と「せ」の識別……p.158
第13講　まし・む・むず……p.172
第14講　らむ・けむ……p.190
第15講　じ・べし・まじ・まほし・たし・ごとし……p.206

〈Memo〉

PART1　歴史的仮名づかい（読み方）

★歴史的仮名づかい

●「あふみのうみ」「あうしうかいだう」とは何？

〈表記〉

（現代語→古文）

①じ→「ぢ」／ず→「づ」

（例）はぢ（恥〔はじ〕）／うなづく

②促音「っ」→「つ」／拗音「ゃ・ゅ・ょ」→「や・ゆ・よ」

（例）鳴つて（鳴って）／大将〔たいしやう〕

〈読み方〉

（古文→現代語）

①　ゐ　→「　　」

（例）ゐなか（　　【　　】）

②　ゑ　→「　　」

（例）ゑし（　　【　　】）

③　を　→「　　」

（例）をさなき人（　　人【　　人】）

④　くゎ　→「　　」／　ぐゎ　→「　　」

（例）くゎんぱく（　　【　　】）／　ぐゎんりき（　　【　　】）

⑤　語頭以外の「はひふへほ」→「　　」

（例）かほ（　　【　　】）／　＊月のひかり（月の　　【月の　　】）

⑥ a＋う →「　　」

（例）あうむ（【鸚鵡】）

⑦ i＋う →「　　」

（例）かなしう（【　　】）

⑧ e＋う →「　　」

（例）せうそこ（【　　】）／けふ（【　　】）

⑨ o＋う →「　　」

（例）きのふ（【　　】）

※「あふみのうみ」→「　　のうみ（【　　の海】）」＝「　　」

「あうしうかいだう」→「【　　】」

問一　次のそれぞれの読み方を現代仮名づかいで書きなさい。

①　にほふ〔　　　　　〕　②　ひとこゑ〔　　　　　〕
③　をかし〔　　　　　〕　④　ふさはし〔　　　　　〕
⑤　とのゐ〔　　　　　〕

問二　次のそれぞれの発音の仕方を、例にならってカタカナで書きなさい。

（例）　けふ　→〔キョー〕

①　いふ〔　　　　　〕　②　あふさか〔　　　　　〕
③　てふてふ〔　　　　　〕　④　しゃうじ〔　　　　　〕

第1講　PART1　確認問題

①「ひやくやくのちやう」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　ひゃくゃくのちよう　イ　ひゃくやくのちょう　ウ　ひやくゃくのちょう　エ　ひゃくやくのちゅう

②「うへに据ゑる」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　うえに据える　イ　うへに据うる　ウ　うえに据るる　エ　うえに据いる

③「につくわう」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　にっかう　イ　につかう　ウ　にっこう　エ　にっくおう

④「にふだう」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　にょうどう　イ　にうだう　ウ　にうどう　エ　にゅうどう

⑤「いてふ」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　いてう　　イ　いちょう　　ウ　いとう　　エ　いたふ

解答

第1講　PART1　解答

問一　① におう　② ひとこえ　③ おかし　④ ふさわし　⑤ とのい

問二　① ユー　② オーサカ　③ チョーチョー　④ ショージ

確認問題　解答

第1講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 現代語の拗音「ゃ・ゅ・ょ」は、古文では「や・ゆ・よ」と表記される。

② 歴史的仮名づかいにおけるハ行の言葉は、語頭以外の場合ワ行に、「ゐ・ゑ・を」は「い・え・お」に直して読む。

③ 現代語の促音「っ」は古文では「つ」と表記される。また、「くわ・ぐわ」は「か・が」に直して読む。

④ 母音と母音が重なる場合は長音に直して読む。「a＋う」は「オー」、「i＋う」は「ユー」となる。ハ行の「ふ」を「う」と直してから、「にう」を「にゅう」と直すこと。

⑤「e＋う」は「ヨー」と直して読む。まず、ハ行の「ふ」を「う」と直してから、「てう」を「ちょう」と直すこと。

〔解答〕

① イ　② ア　③ ウ　④ エ　⑤ イ